

# Sj

人とクルマのいい関係をめざして

10

2005 OCTOBER

編集室：〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1  
本田技研工業株式会社  
安全運転普及本部内  
電話 048(452)0304編集人：河野光彦  
年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)  
郵便振替 口座番号：00170-7-173273  
加入者名：㈱アストクリエイティブ  
安全運転普及本部係今月の  
スポットこの競技大会には、  
私たちの安全運転教  
育のプロモーションの  
クオリティを高めるた  
めにも、これからも参  
加し続けたいし  
(特集より)

CONTENTS

|   |   |
|---|---|
| 特集：海外の安全運転普及活動<br>インストラクター競技大会参加国の取り組み<br>進む指導者づくり、広がる普及活動                    | ① |
| TOPICS 1<br>世界トップクラスのインストラクターが安全運転の技を競う<br>/ 第9回セーフティジャパンインストラクター競技大会         | ④ |
| TRAFFIC ADVICE<br>2005トラフィック・セーフティ・フォーラムin熊本<br>/ 心理学から見た企業内リスクマネジメント         | ⑤ |
| TOPICS 2<br>Bukit Batok Driving Centre (BBDC) 15周年記念<br>/ シンガポールでの安全運転普及活動を継続 | ⑥ |
| NEWS REVIEW<br>セーフティライディング2005<br>活動短信 / 交通教育センター9月                           | ⑤ |
| DOCUMENT EYE 188<br>夜間に横断歩道以外を渡る歩行者と自転車を観察する                                  | ⑥ |

## 特集：海外の安全運転普及活動 インストラクター競技大会参加国の取り組み 進む指導者づくり、広がる普及活動

9月1～3日、鈴鹿サーキット交通教育センターでセーフティジャパンインストラクター競技大会が開かれた。

第9回を迎えた今年も、海外から過去最高の11カ国29名のインストラクターが参加した。これらの参加国ではいま、どのような安全運転普及活動が展開されているのだろうか。急速にモータリゼーションの広がりを見せるアジアの国々を中心に海外の活動を紹介する。



二輪部門「一本橋」の競技風景

四輪部門「ブレーキング」の競技風景

二輪部門  
「コーススラローム」の  
競技風景

四輪部門「フィギア」の競技風景

「初めての大会の雰囲気慣れず、緊張してうまくいきませんでした。中国で販売店の人に教えている時に比べると実力の60%くらいしか出ていない」と悔しそだが、気を取り直して話す。「参加者の実力にすごい差があるのが分かりました。自分はまた高いレベルに至っていませんが、上のレベルの選手と一緒にやっていると自信になります。外国の選手とコミュニケーションを深め、その国で安全活動をどのように展開しているかを聞き、参考にしたい。」

スンさんがほっとした表情で競技から戻ってきた。「競技前の日本のインストラクターからのアドバイスが役に立ちました。緊張でミスもありましたが、比較的良かったと思います。中国ではブレーキング、特に緊急時に、正確にできない人がいます。ライダーは確実にブレーキをかけることを身につけるのが大事だということがよくわかったので、帰国後、指導する際の参考にしたいと思っています。中国でも、同じような競技大会をしていますから、運

9月2日、朝から厳しい残暑に包まれた会場の鈴鹿サーキット交通教育センターで、開会式を終えた中国・新大洲本田(上海)のスン・グアンミンさんとモン・ジュンミンさんは二輪部門のブレーキング競技を前に、緊張感と高揚感の間を揺れ動いているようだ。中国からは、五羊本田(広州)のソン・ビン・ファさんをはじめ3名と合わせて5名が参加している。競技開始を前に、今回選手として参加している日本の交通教育センターのインストラクターからのアドバイスに真剣な面持ちで耳を傾ける。このインストラクターは彼らが中国でフローアップ研修を受けた時の指導者でもあった。競技が始まると、モンさんは帰国後に参考にするのだらう。日本人選手たちのブレーキング競技をカメラにおさめる。そして、いよいよ出走だ。

競技を終え戻ってきたモンさん、

中国

### インストラクターの数の拡大、質の向上





二輪部門の各競技を行う中国の選手たち。競技前の日本のインストラクターのアドバイスが役立ったという



際、新大洲本田のインストラクターがフォローする形で参加する。これはお客様への安全運転普及活動であると同時に、販売

新大洲本田では、社内のチーフインストラクターの研修を2004年に実施。今年は新たに125店の認定店増(各店2名の販売店インストラクターを養成)を目標としている。また、販売店では販売店インストラクターがお客様への安全

安全運転活動を普及するには、ホンダの安全運転普及本部からのノウハウを勉強し、販売店のインストラクター養成などの安全運転普及活動に積極的に取り組んでいる。

中国の二輪車市場は数年来、前年比10%アップで推移しており、2004年は前年比13%増の約1400万台の新車販売台数となり、今後もさらなる市場拡大が見込まれている。そのなかで、新大洲本田、五羊本田の2社は、広大な中国で

「広場活動」を実施している。内容としては、インストラクターがブレーキングなどの「デモンストレーション」を行って通行人の注目を集め、安全運転のチラシを配布したり、興味を持った免許保有者に一本橋などを実際にやってもらい、運転のポイントを説明する。インストラクターも高度な技術を披露するので、彼らのモチベーションアップにもなる。年間8回実施の予定で、今年はずでに3回行っている。



販売店店頭 高校生教育 など多彩な活動

インドネシア

インドネシアのPTアス(以下、アストラ・モーター)から競技大会に参加したの3名、自分のスキル

店インストラクターが実際にお客様に指導できるかチェックし、質を高めるためのフォローアップ研修の要素も込めている。これまで150店で約1500名のお客様に店頭講習を実施した。

一方の五羊本田は今年、583名の販売店インストラクターを養成する予定。また、五羊本田のインストラクターと販売店インストラクターが共同で、ショッピングモールの駐車場などのオープンスペースで行う安全運転普及活動の二環としての「広場活動」を実施している。内容としては、インストラクターがブレーキングなどの「デモンストレーション」を行って通行人の注目を集め、安全運転のチラシを配布したり、興味を持った免許保有者に一本橋などを実際にやってもらい、運転のポイントを説明する。インストラクターも高度な技術を披露するので、彼らのモチベーションアップにもなる。年間8回実施の予定で、今年はずでに3回行っている。

2社は3カ月に1度、合同で「安全運転責任者会議」を開き、安全運転活動の進捗状況の確認、問題点の洗い出しを行う。今後の課題としては、増えていく販売店のインストラクターの質の向上を図ることだといふ。昨年からは社内のチーフインストラクターを対象に「中国インストラクター競技大会」が開かれていたが、今年も11月に上海で同競技会を開催する予定である。この大会で、チーフインストラクターの技術が磨かれ、社内でも安全運転の啓蒙活動が促進されるのが期待されている。内外(社内と店頭)において、地道ではあるが確実な安全運転普及活動の推進が期待されている。

大会に同行したアストラ・ホンダ・二輪サービス部長で、安全運転普及活動の推進を統括するA・S・テジョシスウオジョさんによると、インドネシアにおけるアストラ・ホンダの新車販売台数は2003年の157万台に対し、2005年には270万台以上に達する見通しだ。このうち、カプタイプモデル(100~125ccクラス)が90%、それ以外がスポーツタイプである。アストラ・ホンダはお客様に次の3つを提供することを方針としている。「製品の良さ」、「サービスの良さ」、そして、「乗る楽しさを提供するのための安全運転普及活動」の3つである。

「インドネシアは二輪の増加に伴い、交通事故の約50%に一輪が関わっている。メーカーとしての責任は大きいと考えています。最も力を入れて活動は、店頭での納車時安全運転アドバイス

を向上させるいい機会。また、他のアジアの人たちと交流して情報を得、フィードバックしたい」と語る。この3名がアストラ・ホンダの安全運転普及活動のチーフインストラクターを務めている。27社のメインディーラーの教育・指導が主な仕事で、時にはサブディーラーに対しても行う。現在、メインディーラーには68名のインストラクターが、サブディーラーには750名以上のサブディーラー・アドバイザーがいる。インストラクター養成には3日、サブディーラー・アドバイザー養成には2日間かけて行う。



大会を通じて、各国の選手から情報を得たいというインドネシアの選手たち

海外から アセアン、ヨーロッパでの安全運転普及活動

タイ A.P.Honda

免許取得講習を全国に展開

ピタイナリン・アサーナラウンロオンさん



2001年から交通教育センターで行ってきた免許取得講習の実績が認められ、昨年10月に民間施設として初の政府公認の免許証引き換え証明書発行施設になりました。地方では、運輸省の係員とA.P.Hondaのサブインストラクターが販売店に赴き、免許取得講習を行っています。現在、座学は運輸省の係員、実技はサブインストラクターがそれぞれ担当しています。今後は、サブインストラクターの指導力を強化し、座学も開講できるようにしたいと考えています。そして、全国の販売店で免許取得講習ができるように展開していく予定です。

私たちインストラクターは販売店のスタッフや、高校や専門学校先生を安全運転スクールのサブインストラクターとして養成する仕事をしています。いくら運転技術が優れていても、こうした仕事ができなければ良いインストラクターとはいえません。このような能力も加味して、この大会に出場する代表を選出しています。私は今大会が6回目の参加で、一昨年には四輪部門と二輪部門で優勝しました。来年は後進に道を譲りたいと思っています。

シンガポール Singapore Safety Driving Centre(SSDC)

教習では個人の癖を見極め、改善することを意識

シェイク・モハメド・ハフィスさん



これまでこの大会の出場選手はSSDC内部のみで選考していました。しかし、今年の選考会ではインド、インドネシア、ベトナム、日本の交通教育センター・レインボー、シンガポールのディーラー等のインストラクターや関係者を招き、共に参加や見学する形で実施しました。外部の方々に見てもらうことで安全意識をより高める契機とすることができ、また他国のインストラクターとの交流により、さらなる技術向上への刺激になりました。

私は一昨年に続いて2回目の参加。この大会を通じて、日本の多種に及ぶシステムを学び吸収して、それを同僚に伝え、実際の仕事に反映させていきたい。今回得た新しい知識や技術は帰国後も具体的に教えられます。シンガポールでは二輪車教習に路上教習が義務づけられています。私たちは教習生だけでなく、一般道路においても常に安全運転の模範となるように心がけ、教習に取り組んでいます。安全運転の推進で最も大切なことは、教習生一人ひとりの悪い癖を見極め、改善していくこと。今回の貴重な参加経験を活かし、今後も多くの方々へ安全運転普及活動を実践していきます。

韓国 Honda Korea

このような大会を韓国でも開催したい

ジン・ドンソクさん



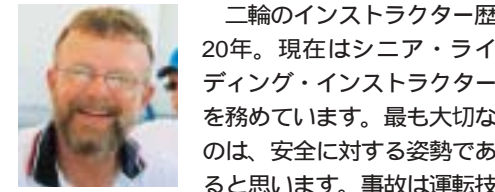
韓国では、これまでベテランのライダーが初心者などに任意で乗り方を教えていました。昨年8月、Honda Koreaの社員4人が日本の交通教育センター・レインボー・浜名湖で5日間にわたる講習を受けてインストラクターが誕生し、お客様を対象に安全運転講習を開けるようになりました。昨年の9月と10月、今年の6月には新型車の購入者や若者ユーザーを対象に、河川敷の公園を会場にして、午前10時から午後4時まで乗車姿勢、ブレーキングなどの講習を実施しました。

インストラクター競技大会には、昨年、Honda Koreaのインストラクター2名が初めて参加し、今年参加した私で3人目になります。韓国には安全運転を教える施設もこのような大会もないので、この大会で学んだことを同僚と分かち合い、インストラクターとしてお客様に教えるのに役立てたい。将来、このような競技大会を韓国でも開催したいですね。フロンティア・スピリットをもって安全運転普及の道を切り拓いていきたいと思っています。

オーストラリア Honda Australia Roadcraft training

一本橋の練習を採り入れたい

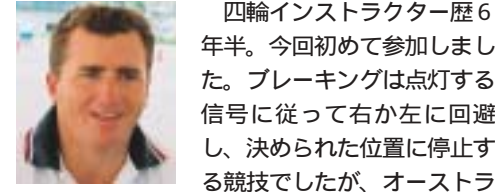
ダリル・フラーさん(二輪部門)



二輪のインストラクター歴20年。現在はシニア・ライディング・インストラクターを務めています。最も大切なのは、安全に対する姿勢であると思います。事故は運転技術があっても起きてしまうものなので、安全に対する意識を高める必要があります。安全への意識とスキルの双方があいまって安全運転が可能となります。オーストラリアでは一本橋の練習はしません。一本橋はバランス、コントロール、姿勢を向上させるのに有効な方法と感じましたので今後採り入れていきたいと思っています。

興味深い日本のブレーキング練習

ダニエル・マクマホンさん(四輪部門)



四輪インストラクター歴6年半。今回初めて参加しました。ブレーキングは点灯する信号に従って右か左に回避し、決められた位置に停止する競技でしたが、オーストラリアではこのような反応が加味されたブレーキングはしたことがありませんので、非常に興味深く、良い経験になりました。帰国後、この方式のブレーキングを採り入れてみたい。しかし、レーンが2つしかないことなどから、今のところ難しいのが残念です。



特集: 海外の安全運転普及活動 インストラクター競技大会参加国の取り組み

の普及です。お客様との接点となる販売店店頭での確かな安全アドバイスを行うことが、事故やトラブルの未然防止の基本だと考えています。またインドネシアの利益にあたる11月のレバロン休暇の際には、全国100カ所以上にアストラ・ホンダのサービスステーションを設置し、サービスキャンペーンや安全運転アドバイスを行っています。1カ所で800名、合計8万人のお客様がアドバイスを受けたことになりました。

高校生への安全運転普及活動にも力を入れ、メインディーラーのインストラクターが高校に出向いて安全教育を行う。1日コースの安全運転研修(実技・座学)を行い、優秀な生徒はアストラ・ホンダで表彰される。この7月には52名の高校生がアストラ・ホンダに招かれたという。アストラ・ホンダはインドネシアで5本の指に入る程の大企業であり、社会的責任を果たすべく「利益を地域に還元していく」ことを念頭において安全運転活動に取り組んでいる。「そのためには安全活動を行うというスピリットを持ち続けること。この競技大会には、私たちの安全運転教育のプロモーションのクオリティを高めるためにも、これからも参加し続けたい」と、テジョシスワオジョさんは熱く語る。



二輪部門の各競技を行うインドネシアの選手たち

187店の販売店インストラクターが行政と連携  
ベトナム  
ホンダ・ベトナムから競技大会に参加したケン・ダイ・トゥイさんはコーススタートの準備を、コース近くに設けられ

たテントの中に座って静かに待っていた。時刻は午後4時半、日中の蒸し暑さはいつの間にか消え、秋らしい涼しい風が吹いていた。先ほど終わったパイロンスフォームを振り返ってトゥイさんは「他の参加選手と比較できるような成績ではありません。でも初めての体験なので、自分では満足しています」といふ。トゥイさんたち6組のグループは試走が終わってスタート地点で待機する。トゥイさんのスタートだ。トゥイさんはタイムを競っているような走りはず、ゆっくりとだが確実にコースを走る。ゴールしたトゥイさんに競技を終えた選手や待機する選手、また関係者の人々が拍手を送る。タイムが発表された。トゥイさんは1分51秒0。



競技車両が慣れないクラッチ付きバイクというハンデにもかかわらず、健闘したベトナムの選手

「競技車のクラッチ付きバイクに慣れなかつたですね。ベトナムにはクラッチ付きはほとんどないので、運転する機会がありません。こつた経験や、この大会に集まっている人たちと交流して得た、日本をはじめ各国の安全運転の技術を持ち帰り、ホンダ・ベトナムの安全運転普及活動に反映したい」と穏やかに語る。パイロンスフォームのときと同様、自分なりにベストを尽くしたという満足感があるようにうかがえた。  
ベトナムではバイクが主要な交通手段で、90年代末に年間新車登録台数が約50万台だった二輪車市場は02年には200万台に。それとともに交通事故が増えたが、道路環境が改善されたこともあって事故件数はかなり減ったものの、依然として大きな社会問題となっている。交通警察は多発する事故を深刻に受け止め、一方ホンダ・ベトナムは製造者としての社会的責任を重視して、事故防止を図っていくことで認識が一致。2004年から日本の都道府県にあたる各省の交通警察とホンダ・ベトナムが連携して、一般ユーザーに対する安全運転指導を行っている。指導にあたるのは、ホンダ・ベトナムが養成した全国187店の販売店インストラクター。ベトナムではこうした行政との連携による安全運転普及活動が広が

っており、地方都市の販売店が行政と連携して、ユーザーを対象とした安全運転競技大会なども行われている。  
今年も、各省の青少年に関わる行政組織と交通警察が共催で、省ごとに「一般ユーザーを対象にした安全運転競技大会」がスタートした。省によって200〜500名のユーザーが参加。参加者の平均年齢は30〜32歳。11月には各省の代表を集めて北のハノイ地区、中部のダナン地区、南のホーチミン地区で決勝戦が行われる。ホンダ・ベトナムはこのイベントでは車両やポスターを提供し、全面的に協力している。  
官と民の連携による社会的事業ともいえる安全運転普及活動でホンダ・ベトナムは重要な役割を果たしており、帰国したトゥイさんがインストラクターとして競技大会で得た成果を役立てる現場がベトナム全土に広がっている。  
このように、海外、特にアジアにおいて安全運転普及活動はさまざまな形で、熱く広がりを見せている。

フランス Honda Motor Europe(south)  
生涯教育としての安全運転の推進  
リゴニ・ベルナードさん  
フランスでは交通社会人としての生涯教育を11歳から行っており、人生の各ステップで自動車学校などを通じた教育の機会が設けられています。フランスでは二輪車での交通事故死亡者は年間800〜900名と多いため、政府も二輪車の安全運転を推進しています。例えば、14歳になり、必要な単位をとればスクーターなどに乗れる制度があります。全中学校で、この単位をとるための講習(実技と座学)が5時間にわたって有資格のインストラクターによって行われています。ちなみに、16歳では125ccまでの、18歳になると125cc以上の免許を取得できます。  
フランスでは運転を教えるのは有資格者に限られ、私たちは1974年からECF(自動車学校)と提携して、安全運転の普及に取り組んでいます。1974年には「バイク上級者スクール」を、85年には「子どものためのバイクスクール」を始めました。販売店は売るだけでなく、直接安全運転に関わることはありません。現在は私たちが販売店に働きかけ、その店のお客様を練習場所に連れて行きECFのインストラクターが安全運転を教えているのです。

トルコ Honda Turkiye  
安全運転普及活動の重要性が徐々に浸透  
チャール・シクムさん  
Honda Turkiyeではトレーニングセンターが5か月前にできたところで、販売店のお客様にアドバイスする体制作りを目標としています。各販売店より1〜2名が参加し、45店舗中、40店にSafety Riding講習を行いました。トレーニングセンターができる前は、安全運転普及活動よりも販売台数の方が重要だと考えられていましたが、組織ができて研修を受けにつれて、安全運転普及活動も重要だという意識が販売店で広がってきていると思います。  
トルコでは、二輪車に乗る時にTシャツと短パンのような服装で乗るライダーが多く、乗り方もよくわかっていないので、事故に遭った時の被害が大きい。そのため、二輪車の事故は大きく取り上げられます。Hondaのバイクで事故を起こしたら、「バイクの事故があった」ではなく、「Hondaのバイクが事故を起こした」と報道されてしまうのです。販売店のお客様へのアドバイスを充実していく必要があります。  
この大会に参加して、日本の交通教育センターが長年積み上げてきた経験の重みを感じました。特に、運転姿勢などはトルコに帰って自分が指導する時にたいへん役に立つでしょう。

マレーシア Boon Siew  
お客様に安全を楽しく教えていきたい  
M.チャンドランさん  
マレーシアではまだ危険な乗り物と見られている二輪車のイメージを払拭するため、Boon Siewの本社のあるペナンから他の地域へと安全活動を広めていく必要があります。そのためまず、Boon Siewグループで働く人々に二輪車の講習会を行い、それからディーラーへ、お客様へと普及しています。最近、二輪車の組み立て工場の455名に安全運転講習会を行いました。次はスペアパーツ工場で講習会をする予定。一方、ペナンでは交通教育センターの建設を進めています。  
私は昨年9月に設置された安全運転普及部門の責任者を務めています。これまで主要都市のペナン、クアラルンプール、マラッカ、ジョホール、サラワクにある5つのディーラーで16名のチーフインストラクターを養成。5月にはサブディーラーに訓練を実施しました。この大会では安全運転教育についての知識を深め経験を積み、安全運転普及活動にフィードバックしていきたい。今後は、ディーラーと共にお客様に安全を楽しく教えていくプロジェクトを考えています。

パキスタン Atlas Honda  
安全運転普及活動は人命を大切に  
にするイスラムの観点と同じ  
タズリーム・シジュさん  
パキスタンには安全運転を普及促進する機関や施設がないので、Atlas Hondaがパイオニアとなって、安全運転を広めていきたい。そのために、現在ラホールにしかない安全運転の部署を今年中に、イスラマバード、カラチ、ムルターンの事業所にも設ける予定です。私たちの主な仕事は2つあります。1つはディーラーの従業員に対する安全運転の講習で、5人単位で3日間にわたり午前8時半から午後5時半ないし6時まで座学と実技を行います。販売店は250店あり、今年中に全店完了の予定。また、昨年実施済みの93店には再教育を行っています。  
もう1つはサービス・ディーラー、警察や民間企業、公務員などに対する安全講習で、これまでに546名が受講。安全運転普及活動は、人命を大切にすることをイスラムの観点と同じであると評価され、イスラムのつとめを果たすことであると受け入れられています。この競技大会で学んだ技術、例えば姿勢を崩さず行う有効なブレーキングの仕方などのノウハウを持ち帰り、同僚たちに伝えたい。